

# 「私を放さないでください」

イエスに私たちが子供であることを知っていただこう。子供たち、それも幼くて単純な子供なら、階段を一段上がるのにどれほど苦労することだろう。階段を前にして時間の浪費をしているとしか見えない。やっとのことで一段上がりって、また次の段を目指す。手足は勿論(もちろんのこと)、全身の力を振り絞って、再び勝利を得た。もう一段進んだのである。そして、また始める。大した努力だ。しかし、もう少しで昇りきる

という所でつまずいた。ああ、また転び落ちた。傷だらけになって涙が溢れ出るが、幼子はやり直す。再び階段を昇り始めるのである。イエスよ、私たちも一人だけだとこうなってしまいます。無邪気な子供の強くて良き友として優しい腕で支えてください。昇りきるまで手を離さないでください。昇りきったその時こそ、あなたの慈しみ深い愛に対して幼子特有の大胆でお応えすることができるでしょう。優しい主よ、夢中になってあなたを愛した人々が大勢いたとは言え、マリアとヨセフを別にすれば、私ほどにあなたを愛する人間は誰一人としていなかつたし、今後もいないことでしょう。（鍛346）

12月18日

私は自分の祈りを声に出しています。皆さん方も一人ひとり、心の中で、主に告白しているのです。主よ、私はなんという厄介者でしょう。なんと弱虫だったことでしょう。あちこちで、あれやこれやの機会になんと多くの過ちを犯したことでしょう。さらに続けて申し上げましょう。主よ、御手で支えてくださいましたので助かりました。私はどんな罪深いことをやってのけるかわからないのです。私を放さないでください。小さな子どものように扱ってください。私が強く、大胆で、志操堅固であるように助けてください。未熟な子どもに対するように、年をとっても私をお導きください。御母がいつも傍にいて守ってくださいますように。このような助けがあれ

ば、私たちでも、御身を模範として仰ぐことができます。

「できます」の叫びは虚勢ではありません。イエス・キリストはこの神的な道を教えるだけでなく、弱い私たちの手に届くものとし、私たちがその道を歩むように望んでおられます。そのために主は、あれほど遙られたのです。「神としては御父と同格である主が、奴隸の姿をとるまで自分を低めてくださった動機は、これであった。しかし、威厳や権能において遙られたのであって、善性や慈悲においてではなかった」（聖ベルナルド）。

神は善い御方ですから、私たちの道を容易にしてやりたいとお望みになりました。イエスの招きを退けたり、拒んだり、呼びかけに聞こえないふりをしたりするのはよしましょう。逃げ口上は許されません。できないなどと考え続ける理由もありま

せん。主は模範をもって教えてくださいました。「それゆえ兄弟たちよ、私は切に願う、主の示してくださいさった素晴らしい模範が無駄にならぬよう主に一致し、己が精神を新たにせんことを」（聖ベルナルド）。

（知識の香15）

---

pdf | から自動的に生成されるドキュメント [https://opusdei.org/ja-jp/dailytext/  
Watashi-wo-Hanasa-naidekudasai/](https://opusdei.org/ja-jp/dailytext/Watashi-wo-Hanasa-naidekudasai/)  
(2025/12/19)